

2021年度人間社会科学研究科入試問題（第1次）

社会学（出題意図及び解答）

（社会創成専攻 人文社会コース 外国人留学生特別入試）

1. 社会学的な視点からものごとを論じる力を問いました。
2. 研究をしていくために必要な日本語の理解力と表現力を問いました。
3. 専門的文献を読むために必要な英語読解力を問いました。

解答例

はじめに、セックスがあり、ジェンダーがあった。1960年代後半、1970年代初頭にその領域についてコース（課程）で教えられた私たちは、それぞれを区別することに注意を払った。a 私たちは、セックスは生物学、すなわち解剖学、ホルモン、生理学に帰せられるものと学生に教えた。私たちは、ジェンダーは地位、すなわち心理学的、

文化的、社会的な手段を通して構築されるものと言った。二つの間の違いを紹介するために私たちは、両性具有や「奇妙でエキゾチックな部族」についての人類学的調査の珍しい事例を利用した。

各学期の数週間で、必ず（そしてもっともなことなのだが）、私たちの学生は混乱してくるのだった。セックスは、その帰属の基準として、時に曖昧で、そしてしばしば相矛盾するものを示した研究の文脈からは、とても「先天的なもの」のようには思えなかった。ましてジェンダーは、私たちが学んだ人類学的、心理学的、そして社会的要請の文脈——分業、ジェンダー・アイデンティティの形成、男性への女性の社会的従属——からは、「後天的」とは思えなかった。

b さらに、ジェンダーの社会化理論について一般に受け入れられた学説は、ジェンダーが「後天的に達成される」ものであるが、5歳までにそれはある程度固まり、変化しなくなり、静止している——セックスとそっくりだ——という、強いメッセージを伝えたのだった。